

## 第39回 高橋記念賞

高橋記念賞は、故高橋愛次氏の功労を記念し、扶桑軽合金株式会社（現 株式会社アーレスティ）より寄贈された基金により、軽金属鋳物、ダイカスト、展伸材、二次合金および再生地金等の溶解・鋳造に関連する工業技術の進歩発展に功労のあった技能者に贈る。



前川 和弘 君  
(株式会社UACJ)

前川和弘君は、1983年4月に古河アルミニウム工業株式会社（現 株式会社UACJ）に入社し、33年間一貫してアルミニウムスラブの溶解鋳造に精励している。1990年台に、アルミニウム合金の鋳造では世界最大級のLNG材用の大型スラブや品質の厳しいキャン材等のスラブについて、操業当初は高かった不良率を鋳造条件の最適化により低減させるとともに幅可変鋳型の実用化により鋳塊切断歩留まりも大幅に改善させるなど、鋳造技術確立に大きく貢献した。さらに大型スラブ鋳造に特有な鋳造作業上の危険防止にも取り組み、無災害職場の下地を作った。これらの経験を活かし、2007年には、17年ぶりに福井製造所に新設したキャン専用鋳造工場の立ち上げに携わり、当時の最新技術を駆使した工場における作業安全性の確保、品質安定化および生産性確保などの問題に対し、先頭に立って着実に対応した。

若手の教育においては鋳造技術の伝授だけでなく、QC活動や5S、安全、環境への重要性も説きモラルを向上させ、毎年の社内改善目標を達成し、原料コストや生産コストも含め、世界トップレベルのスラブ生産職場へ導くなど、現場指導力の高さも特筆すべきものである。



牧野 圭祐 君  
(株式会社神戸製鋼所  
大安工場)

牧野圭祐君は、1981年4月に株式会社神戸製鋼所に入社以来、一貫してマグネシウムやアルミニウムなどの軽合金の砂型鋳造品の製造に携わり、造形・鋳造・熱処理・完成検査までの全工程に従事してきた。特にヘリコプタ用鋳造品（トランスミッションケース）や航空機エンジン用鋳造品（ギアボックス）などの生産、工程改善（品質向上、稼働率向上）に取り組み航空機用砂型鋳造品の業績拡大に大きく貢献してきた。

また、2008年の工場全体の改善活動プロジェクトでは30%を超える生産性向上や技能継承など、現場力の向上に大きな成果を上げている。

現在は航空機エンジン用大型マグネシウム鋳造品の開発やマグネシウム新工場の量産立ち上げに、これまで得た経験・知識を生かし幅広く活躍している。また、現場の係長として安全を重視した強固な現場組織体制の構築や後進の若手作業員の指導育成など、マグネシウム鋳造の普及発展に常に尽力し続けている。



宮嶋 久義 君  
(株式会社アーレスティ  
熊本)

宮嶋久義君は、1990年2月に株式会社アーレスティ熊本に入社し、鋳造および検査業務を経て、1994年から21年間一貫してダイカスト鋳造の要となる金型の整備業務に携わってきた。その間に同君は、さまざまな生産性改善や職場改善に貢献している。所属のQCサークルにおいては常に社内上位、外部大会出場や石川馨賞受賞など実績がありサークルの牽引役としても活躍している。一例として鋳造時の鑄ばり噴き慢性金型撲滅に寄与し、特許出願をしている。また、金型整備効率の向上や生産性を阻害している金型故障低減のために真因追求とその対策を展開し、金型故障回数を削減でき生産性向上に大きく貢献する手腕を発揮している。実際に、株式会社アーレスティ熊本では、例えば2015年度から2016年6月まで、金型故障回数が右肩下がりで削減できており、この成果は同君の尽力によるところが大きい。その他にも金型整備場の5Sや見える化の改善、次型・次々型の先行整備率向上にも率先して取り組み、多岐にわたって活躍、奮闘している。

以上のように、同君は長年にわたり軽金属鋳造技術の発展に大いに貢献しており、さらにそこで培われた技術を活かし後進の若手技術者の育成指導にも尽力している。